

第3回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和4年4月19日（火）

開議 09時 59分

閉議 11時 13分

全員協議会室

- 【委員】 西田委員長、上野副委員長
村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員
- 【委員外】 なし
- 【議長団】 笹田議長
- 【事務局】 河上局長、松井書記、下間次長
-

議 題

- 1 まちづくりセンター職員との意見交換（現地ヒアリング）について

- 2 その他

6月7日（火）13時30分 全員協議会室

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[09 時 59 分 開議]

西田委員長

第3回協働のまちづくり推進特別委員会を始める。
前回、まちづくりセンターにヒアリングに行くことを決めたが、今日は班編成と訪問先の割り当てを決めたい。

1 まちづくりセンター職員との意見交換（現地ヒアリング）について

西田委員長

資料1を見てほしい。分担表の案を正副委員長と事務局でつくった。浜田地域とその他の地域の議員をペアにした4班編成である。この案でよろしいか。

（ 「はい」という声あり ）

ではこれで決定する。訪問先については二つの案がある。第1案は地域の単位を重視しており、第2案は地域を分散している。委員から意見等あればお願いします。

村武委員

資料には「国分まちづくりセンター」とあるが、「国府」が正しいので訂正してほしい。

案については、地元のセンターのことは皆よく知っていると思うので、案1がよいと感じた。

西田委員長

他に意見はないか。案1で決定してよろしいか。

（ 「異議なし」という声あり ）

では、案1に決定する。

河上局長

案1に決定したので、資料3の担当者の欄に委員の名前を入れて表を完成させる。

西田委員長

前回の委員会で、芦谷委員から、ヒアリングを5月中旬くらいまでに終わらせようという意見が出た。実施期間と各センターへのアポの取り方について、委員から意見があればお願いします。

川神委員

連休を外して考えると、今から予定を組んでやると5月中旬は少しタイトだと思う。5月いっぱいくらいが現実的ではないか。

西田委員長

他に意見はないか。

芦谷委員

5月末までにヒアリングするのはよいと思う。ヒアリングの次の作業の腹合わせもしておくとのよいのではないか。

西田委員長

芦谷委員も、ヒアリングは5月末まででよいとのことである。これでよろしいか。

（ 「異議なし」という声あり ）

では、ヒアリングは5月末までに行うことに決定する。

河上局長

この会議が終わったら、議会事務局から各まちづくりセンターに依頼文書を送るので、委員は4月25日以降に各センターにアポを取ってもらいたい。アポが取れたらその結果を事務局に報告してもらいたい。

西田委員長

また、ヒアリングが終わった後にどういう形で報告してもらおうかを決めておいてほしい。

6、7か所ずつ回ることになるが、スケジュールは各班に任せる。それぞれが各センターにアポを取り、その結果を事務局に随時報告してほしい。

柳楽委員

資料2は、まちづくりセンターへのヒアリングシートの案である。目を通して、意見を出してほしい。このシートを事前に各センターに送付すれば、センターも回答を用意することができる。

この内容でよいと思うが、地域住民のどのくらいの割合の人が協働のまちづくりについて知っているか、センターに確認してみたい。

自治区制度についても、制度が終わる頃になっても理解していない住民がいたので、今の段階で、どの程度共有されているかは大事なことだと思う。正確な割合は難しいと思うので、センターとしてどのように感じているかでよい。

河上局長

では、地域住民の今現在の認識はどうかという質問を加える。

西田委員長

他にあるか。

川神委員

この特別委員会を立ち上げた原点は、協働のまちづくりが何なのか、誰のためかということである。住民自治を促進させるもの、住民みずからがこういうまちづくりをしたいというのを後押しする体制が協働のまちづくりだと思うので、住民がどの程度理解しているかという項目は絶対に必要だと思う。公民館とまちづくりセンターはどうか変わったかという単純なことをわかっているかどうか、さまざまな形で進んでいるが、住民の気持ちや理解度が置いていかれていると痛感している。この特別委員会がそのあたりを埋めていく必要があると思っているので、そのあたりに重きを入れてつくってもらいたい。

西田委員長

ヒアリングシートの内容について、ほかにあるか。

村武委員

ここに記載する必要があるかわからないが、公民館の時代よりも申請手続きなどが煩雑になっていると聞いているので、職員はどう感じているか聞けるとよい。

西田委員長

手続き上の変化についても、各班で行って細かいことを直接聞いてもらえばよいと思う。

川神委員

かわらない点をあえて書かないといけないだろうか。進化した点と後退した点以外はかわらない点なのだから、あえて書く必要があるのか。

西田委員長

皆の意見はどうか。

芦谷委員

協働のまちづくり推進計画資料編のアンケートを見ると、住民で知っている人は2、3割、まちづくり関係団体の方は4割くらい知っている。市が幾ら旗を振ってもなかなか地域住民はわかっていない。住民の理解にどのような変化があるかと聞かれても答えにくいと思

う。関係性や連携はヒアリングの中で聞き出せばよいと思うが、このヒアリングシートを見る限りにおいてはわかりにくいと思う。

もう1点。これは専ら市長部局の仕事である。議会が市長の仕事にどう関与するか、スタンスを持っていかないといけない。聞き出してまとめて提言することになると思うが、中途半端に聞いてうまく前に進めばよいが、ヒアリングする側がある程度腹合わせしておくことが大事である。ただ行って聞くだけでは後に残るものがあるか心配である。8人の連携にかかっている。

西田委員長

市長部局的な方向のヒアリング項目かもしれないが、それを聞くことは一つの情報としてはよいと思うが、芦谷委員が言ったように、特別委員会として、違う角度からの踏み込んだ質問も共通項目としてあってよい気がする。そういう事項があれば提案してもらいたい。

川神委員

ヒアリングシートに上げる項目でない部分に真意が入っていたりするので、現場で話を聞くのが基本だと思う。そうでなければヒアリングシートを送って回収するだけで済む。行けばこのシートに反映できないこと、表になかなか出ないことがたくさんあって、それに耳を傾けて改善策を練らないといけない。現場の職員が気持ちよく仕事できて達成感を感じなければ、センター自体の魅力にもつながらない。そのあたりの本音をどうやって聞き出すか、現場でのヒアリングにかかっている。

岡本委員

一番聞きたいのは、現在困っていることは何かであり、それをどう引き出せるかが問題だと思っている。限界集落、独居老人、子ども会の承継を含め、つなぐことができない状況があるということについて、現地に行って把握してくることが大事だと思っている。

西田委員長

課題はどこにでもあり、それをいかに引き出すかが重要である。ヒアリングシートに今上がっているのは一般的に考えられる項目で、我々がまちづくりセンターへ行って直接話を聞く目的の半分だと思う。残り半分は、そこで仕事をしている人の内面や地域課題をいかに引き出すかではないかと思う。それを班ごとに引き出して、ヒアリングシート以外の情報を持ち帰ってほしい。

ヒアリングシートの項目は幾らでも加えられるが、先ほど柳楽委員が言ったことは加えるとして、各地域の課題や職員の悩み事などは現地に行って引き出してもらえたらと思う。ヒアリングシートにつけ加えることはこのくらいでよいか。

芦谷委員

少し文言を修正するとすれば、1番の①の後退した点というのが気にかかる。「改善したい点」ではどうか。②の地域住民の意識は「住民の理解」のほうがよい。2番の②の悩んでいることは「改善したいこと・すべきこと」がよい。3番の①の連携とあるが「具体的に」を加えたほうがよい。④の連携を持っている組織は「組織・団体」のほうがわかりやすい。4番の①の阻害要因がわかりにくい

ので「どのような改善が必要か」という書き方がよい。5番の要望の欄はもっと大きくして、「行政」ではなく「市役所への意見・要望」としたほうがよい。

西田委員長

ヒアリングシートの文言について指摘があった。趣旨については大きく変わっていないと思うが、正副委員長と事務局で調整したい。

村武委員

芦谷委員が言った1番の変化について。最初の「進化」というのも、何をもって進化とするのか。例えば、まちづくりセンターにかわってよかった点、といった表現のほうがよいのではないか。

西田委員長

1番の①の「変わらない点」は省くこととする。では、ヒアリングシートの中身について、あとは正副委員長と事務局で調整することによってよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのようにする。

資料3のまちづくりセンター一覧表を見てほしい。その中の一番下に書いているが、担当課には、各センターの活動報告書と職員体制を事前に提供するよう依頼中である。ほかにも欲しい資料があれば意見をもらいたい。

川神委員

活動報告書とはどの程度のボリュームのものか。今までもまちづくりセンターの優秀な事例発表会などの際、一つの事業でも結構ボリュームのある資料が出ているので、さまざまな取り組みになるとかなりの量になるが、ある程度ダイジェストでまとめられているものなのか。

河上局長

今あるものということで、各センターから上がってきた報告を1冊にまとめたものである。

西田委員長

それは参考になると思う。では、事前に提供を求めるのは、活動報告書と職員体制だけでよろしいか。

柳楽委員

センターの地域内でもまちづくり組織や自治会等があったり、まちづくり組織がまだできてないとか、実情が違っているの、そこがわかればと思う。両方あるところと一つにまとまっているところで違いがあるのか気になる。

河上局長

推進計画の中の、設立状況の資料が一番わかりやすいと思う。浜田まちづくりセンターの管内には五つのまちづくり委員会ができていることがわかる。もっと詳しいものが必要か。

柳楽委員

まちづくり委員会はこれを見ればわかると思う。自分が住む地域では、今回、まちづくり組織と自治会を一つに統合した。そういった地域が何か所かあると思うが、それがわかればうれしい。

西田委員長

確かに三隅地域でもそういった事例がある。それも確認できるような資料が欲しい。

芦谷委員

自治会や町内会など、呼称が違う。執行部は仕方ないと言うが、まちづくり委員会をつくっても連合自治会が残っている。基盤とな

る仕組みはある程度統一していかないと、勝手に地域でやると違ってくる。その辺をこちらも意識しないといけない。いつも質問しているが、執行部は、地域の独自性なので市は知らないと言うが、本当にそれでよいのかと思う。

西田委員長

自治会があったり、自治会も引ついたり離れたり、連合自治会があったり解散したり、いろいろな地域の実情に合わせた形で、全体的に統一はされてない。それらも含めて、センターの職員を含めたいろいろな人の思いや意識もヒアリングの中で聞き出してもらいたい。

河上局長

各センターにアポイントを取って事務局に報告してほしいと言ったが、委員派遣などの手続きをしたいので、4月25日から5月6日までの間をお願いします。

西田委員長

5月6日までに、各センターへのアポの状況を事務局に報告することよろしいか。

(「はい」という声あり)

連休があるので早目がよいと思うのでよろしくお願いします。ヒアリングシートについては以上よろしいか。

(「はい」という声あり)

議題1について、ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

2 その他

西田委員長

当委員会への執行部の対応ということで、当委員会が所管する事項について確認したい。担当課は地域政策部政策企画課、地域活動支援課、まちづくり社会教育課が所管する事項ということで、資料の①から⑤が所管項目となる。何か意見があればお願いします。

芦谷委員

この資料はどこがつくったのか。関係する課は三つでよいが、自主防災、地区の社協は他の部が所管するのでほとんど触れられない。このまま進めてもよいが、必要な場合には他の部署もかかわってもらう必要がある。

河上局長

この資料は事務局案として作成したものである。特別委員会は、ある目的のためにつくられた特別な委員会で、所管事務がないので、その目的を達成するために、どこの課がつくった資料は最初に見せてもらいたいということをまとめた。芦谷委員が言うように、当委員会の目的を達成するために必要なことがあれば、その課に来てもらってヒアリングや意見交換をすることもできる。

西田委員長

所管を決めるが、必要に応じてエリアを越えた情報や資料など、担当を呼ぶこともあるかもしれない。一応、この所管事項で了解してもらえたらと思うがよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

- 河上局長 今日議題はこのくらいだが、そのほかにあればお願いします。
当委員会に報告を上げてもらう項目が決まったので、早速、担当課からもらった、まちづくりコーディネーターとまちづくりセンター職員の名簿を委員に配信しているので見てもらいたい。これについては、今日の委員会が終わったら全議員に同じものを配信する。
- 西田委員長 この情報は、常任委員会でも報告があったのか。
河上局長 今初めてである。この委員会に報告を上げてもらうことになったので、ほかの常任委員会には上がらない。ただ、この名簿は全員に提供してほしいとのことだったので、全議員に情報提供したい。
- 西田委員長 では、名簿を確認して、参考にしてセンターの職員やコーディネーターとコミュニケーションを取れるような人間関係をつくってほしい。これについてはよろしいか。
(「はい」という声あり)
ほかに、委員から意見があればお願いします。
- 柳楽委員 5月中にまちづくりセンターへのヒアリングを終えるとのことだが、ヒアリングシートの提出期限はどうするのか。
- 西田委員長 ヒアリングした内容をまとめる作業もある。提出期限はいつがよいか。
各センターにヒアリングした結果を各班で随時まとめて、報告の用意をしてもらう。報告資料がまとまったら、皆で集まって情報共有したいので、それを次回開催としたらと思う。
- 河上局長 こちらもでき上がった資料などはタブレットを通じて委員に配信しながら進めていく。行ったところからまとめてもらい、事務局への提出方法は知らせる。最終締め切りは、一般質問もあるので6月9日あたりでどうか。
事務局がまとめたところで委員長に報告するので、次の会議の開催を検討してもらいたい。
- 西田委員長 次回の日程を決めておけば楽なのだが。
村木委員 ヒアリングシートだけを提出すればよいのか。聞き取ったことをつけ足した特別な報告書ではなく、あくまでもこのシートを埋めるということによいか。
- 西田委員長 基本的にはシートを埋めてもらうが、プラスアルファで各地の情報、課題、悩み事などをまとめて、それも併せて提出してもらいたい。班によってボリュームは違うと思うが。
- 村木委員 所感的なものを他に提出するということか。データで提出したほうがよいか。
- 西田委員長 データのほうがよい。
- 芦谷委員 所感というのは、ヒアリングした人の感想という意味か。
- 村木委員 追加の部分として、5番の「要望など」の後に、そこで聞き取ったことを書くということによいのではないか。

西田委員長

「要望など」という部分がどのくらいのボリュームになるかだと思ふ。では、ヒアリングシートの提出期限を6月3日の夕方5時までとする。そうなると次回開催はシートの提出後であり、6月6日の週になると思ふ。次回開催はいつがよいか。

《 以下、日程調整 》

次回は6月7日火曜日、午後1時30分からとする。

笹田議長

私もついていけるところがあればついて行って、話を聞きたい。一つ気になったのが、ヒアリングシートのほかにも聞き取りすることだが、聞き取り内容がまちまちだと集計するのが大変ではないか。ここでは聞いたがここでは聞いてないというものがあると集計が難しいと思ふので、ある程度共通認識のもとで質問したほうがよいのではないか。細かい点はおのおので聞いたらよいとのことだが、聞いたところと聞いてないところがあつて、聞いてないところにも聞いてみようとなると二度手間にならないか。

西田委員長

地域の実情に差があり、共通のことを聞くのも難しい面がある。これまでも常任委員会などで地域に出向いたことがあるが、現場の人はいろいろな思いを持っているので、その辺を自然体で聞いてもらい、それを報告し、まとめればよいと思ふ。各センターによる違いがあるのは当たり前なので、現状をしっかりと正しく聞いてもらい、当委員会で共有しながらまとめていきたい。

笹田議長

委員長がそう言うなら任せたい。よろしく願ひする。

西田委員長

全体を通じて何かあるか。なければ、以上をもって協働のまちづくり推進特別委員会を終了する。

[11 時 13 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西田清久